平成30年度 第2回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 平成30年10月29日(月) 13:00～14:30
- 2 場 所 恵み野旭小学校 旭っ子ルーム
- 3 出席者 (市長) 原田 裕、(教育長) 穂積 邦彦、
(教育長職務代理人) 宮本 春美、(教育委員) 土谷 秀樹、
(教育委員) 尾形 直子、(教育委員) 福屋 栄人
事務局
(総務部長) 横道 義孝、(教育部長) 橋場 誠次、
(教育部次長) 中陳 法仁
- 4 傍聴者 3名
- 5 議題 議題(1) ICT教育推進について【授業視察】
(2) 平成31年度教育予算について
(3) その他
- 6 議事録内容

1. 恵み野旭小学校長挨拶

(校長)

市長並びに教育長、教育委員の皆さんには日頃から心遣い、教育活動にご支援いただき感謝申し上げます。これから本校のICTに関する授業視察をしていただくが、プログラミングの授業については今年度から行っている。国の新学習指導要領ではプログラミング的思考の育成が新たに追加されたが授業時間数や授業を実施する学年などに規定がなく、学校に一任されている部分が多い。2020年には必修科目となることから地道に研修等を行い、授業のあり方を定め、教育活動に含めていきたいと考えている。

市長挨拶

(市長)

本日は、平成30年度第2回恵庭市総合教育会議にご多忙の中ご出席を賜り、感謝申し上げます。総合教育会議は今年度2回目、通算で6回目となる。最近の学校教育は変遷が激しく、それに伴い学校や教育委員会においては大変だと思うが、恵庭の子ども達のためにどう教育を進めていくか一緒に考えていただきたい。今回のテーマとなっている「ICT教育推進」について、恵み野旭小学校は市内の小学校で最初に電子黒板を導入した。ICT教育を進めていかなければならない中、先駆的にやっただいて。本日は実際に授業の様子を見学させてもらい、意見を交わし、有意義な会議としたいと考えている。授業の見学等にご協力いただき、恵み野旭小学校に改めて感謝申し上げます。

2. 教育長挨拶

(教育長)

今年度第2回目となる総合教育会議開催に係り、会場及び授業視察にご協力いただき恵み野旭小学校に感謝申し上げます。

恵庭市の教育は、「ふるさとに生き 夢と志をいただき 心豊かに たくましく伸びる子どもの育成」を基本理念とし、まちづくりに連動した「ふるさと教育」を基盤に、学力・体力・豊かな心の調和の取れた教育を目指し、地域や保護者、市民の方々に多くの方にご支援、励ましをいただき進めることができている。

これからは人工知能やグローバル化など変化が激しく、将来が見通しにくい社会といわれている。それらを背景に学習指導要領が改訂され、小学校は2020年度から、中学校はその翌年度から全面実施となる。新学習指導要領に対応すべく本市では様々な取組みを進めている。

今日は、ICT教育の学校での現状を理解していただき、これからの教育について様々な議論ができれば考えている。

3. 議 題

(1) ICT教育推進について【授業視察】

- ①電子黒板活用授業（1年1組）
- ②タブレット活用授業（6年1組）
- ③プログラミング教育授業（5年1組）

(事務局)

○恵庭市におけるICT教育推進について（資料1～3）

第2期教育振興基本計画で目標とするICT環境整備は大きく4点ある。

- ①超高速インターネット接続率及び無線LAN整備率100%
- ②コンピュータ教室(40台)及び設置場所を限定しない可動式コンピュータ(40台)
- ③各普通教室 電子黒板1台
- ④ICT支援員の設置

上記は2017年度までの計画であり、現在2022年度までを計画期間とした新たな計画が策定されている。新しい計画では学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備するなど実現が現実的には難しいものもある。

恵み野旭小学校では電子黒板導入モデル校として活用法を研究していただいているほか、感情認識ヒューマノイドロボットのPepper(ペッパー)を導入し、プログラミング授業を今年度から取り組んでいただいている。

【質 疑】

(A委員)

授業の様子を見るとみんな楽しそうに授業を受けていた。ただ、2人1組で授業を行っていたが、2人で協力してやっているところもあれば、1人に任せているところもあり、今

後苦手意識も持ってしまう児童が生まれてしまうのではないかと感じた。今後はそういった課題も想定し進めていかなければいけないのではないかと。

⇒ICT教育は始めたばかりということもあり、まずは子どもたちに授業で体験、参加してもらうことを目的としている。具体的な能力といったものは次の段階になると考えている。

(A委員)

新しい計画が2022年度までとのことだが、時間がないように感じる。教師にセミナー等を受講させているとのことだが、今後どのように取組んでいくかが課題である。

⇒教師同士、互いに教え合いながら行っている。まずは得意な人が先頭を切り、苦手な人に教えるなどし、石狩管内にある研修センターで研修も行っている。新しいものを取組むときはいつも大変であるが、乗り越えようという気持ちを持って取組んでもらっている。

(D委員)

タブレットを活用した授業では2人で1台を使用していたが、指導的な部分で2人1台としていたのか、物理的に2人1台となっていたのか。

⇒両方の理由が考えられるが、先ほどの授業の様子を見ると今回は話し合いながら共同で進めていくことを目的としてやっていたのではないかと思う。ただ、全クラスが使用するとすると台数が不足するという現実もある。

(市長)

タブレットは全部で何台あるのか。

⇒全部で80台ある。半分はパソコンの更新事業の一環で購入し、もう半分は学校が独自で用意した。

(C委員)

授業の様子を見ると指導の仕方を工夫するなどとても効果的に見えたが、児童の理解力などが上がったなどの実感はあるか。

⇒学力やテストの点数など具体的な数値が出にくいですが、授業を理解させやすい、発表の機会を前よりも持てるようになったとの話があった。

(市長)

プログラミング授業には授業数に規定がないとのことだが、年間何時間程度設けているのか。また授業の対象は5年生のみか。

⇒授業の対象は5年生と6年生としている。今回視察した5年生の授業は全部で5時間設けており、今日の授業が最後の5時間目であった。それまでに4時間プログラミングの授業を行っている。

(B委員)

P e p p e r は恵み野旭小学校の所属となるのか。

⇒恵み野旭小学校の所属としてレンタルし、活用法を研究している。

(B委員)

今後、1人1台タブレットやパソコンを持ち、授業を受けることも考えられるが、長時間利用による目への影響など長期的にみたケアの検討も必要ではないか。

⇒今後、ICTは良い悪いに関わらず取組まなければいけない。教育現場が変わっていく中で留意しなければならない点をみんなで協議し、積み重ねていく必要がある。ICTを活用することで学力や体力にどれだけ繋がっていくか、例えば大学と連携して検証するなどして研究成果を計るのもいいかもしれない。

(市長)

恵庭市は、電子黒板を活用した授業について全道的に見て遅れているのか。

⇒近隣4市でみると本市の導入は遅いが、全道でみると進んでいる。

(2) 平成31年度教育予算について(資料4)

資料4の事業要望一覧は平成31年度の政策事業及び恵庭市第5期総合計画の第2次実施計画を取りまとめたものである。全部で34事業あり、うち17事業が新規事業である。

「教育ICT機器整備事業」では電子黒板等のICT機器がまだ整備されていない4校に対し実施する予定であり、来年度で事業完了を迎える予定である。また、年次計画としては校舎の改修事業や防音機能復旧事業など7事業を実施する予定である。

政策的事業について先日、担当部署より事業のランク通知があった。現在、実施を「見送り」とする政策ランク「D」と判断された「学校内ネットワーク管理委託事業」や「外国語教育の充実(ALTの増員)」については平成31年度の事業実施に向け、復活要求を行っているところである。また予算査定時に事業実施を査定する政策ランク「C」と判断された地区会館の改修事業については実施箇所を検討するなど精査している。

(市長)

あくまで要求額であり、全ての予算がつくわけではないことを承知いただきたい。教師用パソコンの更新などは5年に一度、必ず行うものであり、できる限り対応するが多少の遅れが出る可能性もある。建物の老朽化も進んでおり、トイレの改修などはあらかじめ終了し

たが、来年度から恵庭小の大規模改修が始まり、順次その他の小中学校の改修が始まる。教育施設以外の公共施設の老朽化も進んでおり、どのように進めていくか考えていかなければならない。学校のように単独の機能を持たない施設は今後複合施設にするなど、今後皆さんからの意見なども取り入れ、検討していくこととしたい。

(3) その他

次回の開催は4月下旬を予定しており、詳細が決まり次第改めて連絡することとしたい。

以上